日田市埋蔵文化財調査報告書第31集

# 日田条里上手地区５次

２００１年

日田市教育委員会

## 例　　言

1．本書は丸善株式会社より委託を受けた天神町宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2．調査にあたっては、事業者である丸善株式会社代表取締役三苫康之氏、地権者である樋口清氏には全面的なご協力をいただいた。
3．本書に掲載した写真のうち、遺物写真撮影は雅企画有限会社長谷川正美氏の委託、空中写真撮影は(有)スカイサーベイ九州の委託によるものを使用した。
4．以外の遺構写真撮影は若杉が行った。遺構実測は若杉のほか、雅企画有限会社森山敬一郎氏の委託により、遺物の実測は若杉が行った。
5．製図は雅企画有限会社財津香奈子氏の委託によるものを使用した。
6．遺跡からの出土遺物、および実測図・写真についてはすべて日田市埋蔵文化財センターに保管している。
7．本書の編集は、行時・若杉が協議の上、若杉が行った。

## 本　文　目　次


Ⅰ　はじめに …… 1
　1．調査に至る経過 …… 1
　2．調査組織 …… 1
Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 2
Ⅲ　調査の記録 …… 2
　1．調査の経過 …… 2
　2．調査の内容 …… 2
Ⅳ　まとめ …… 4


## 挿　図　目　次


第1図　周辺遺跡分布図（1/20,000）
第2図　調査区位置図（1/5,000）
第3図　遺構配置図（1/250）
第4図　1号掘立柱建物実測図（1/60）
第5図　2号掘立柱建物実測図（1/60）
第6図　1号土坑実測図（1/30）
第7図　出土遺物実測図（1/3）


## 図　版　目　次


図版1　上 空中写真（東より）
　　中 空中写真（真上より）
　　下 掘立柱建物（真上より）
図版2　上 1号土抗（南より）
　　中 礫の堆積状況（南東より）
　　下 出土遺物

# Ⅰ　はじめに

## １．調査に至る経過

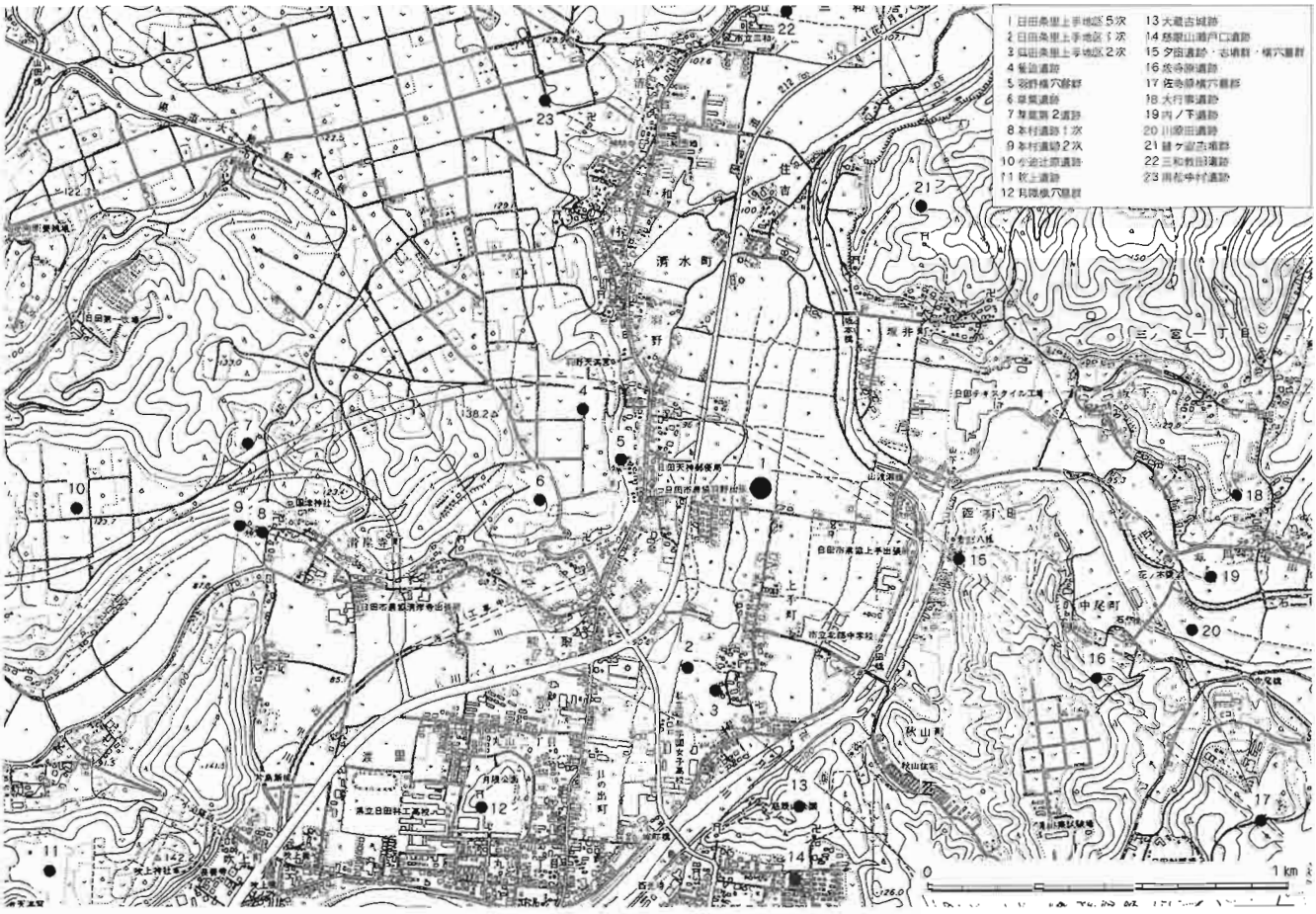
平成11年10月29日付けで丸善株式会社より日田市大字三和字当根町12番地１ほかに宅地造成工事を計画している趣旨の照会文が日田市教育委員会に提出された。この開発予定地周辺は国道212号線バイパスや九州横断自動車道の開通、県道拡幅工事により、道路網が整備されると共に店舗建設や宅地造成が近年著しく増加している地域である。これまでにも多くの試掘調査や発掘調査がおこなわれてきた。今回の開発予定地は周知遺跡の日田条里遺跡群の中にあり、これまでの遺跡周辺での試掘調査や発掘調査の状況からも遺跡の存在の可能性が高いと判断し、事業者・地権者の協力を得た上で、機械による試掘調査を平成11年11月９日に行った。

試掘調査では古代から中世にかけての土器や柱穴が確認され、遺構の存在が明らかとなったため、遺跡の取り扱いについて事業者と協議を行い、基本的には盛土工法による工事であるが、幅３ｍ程の道路を予定地南側にとおして、基礎工事までで一部掘削すること、また遺構検出面までの深さも浅く、全体的な基礎工事により、遺構の一部が失われる危険性もあったため、道路部分とその北側の遺構が目立って存在する範囲において発掘及び確認調査を実施することとなった。その後、平成12年４月13日に委託契約を締結し、平成12年４月17日に調査を開始し、５月12日に全ての調査を終了した。

## ２．調査組織

調 査 主 体　日田市教育委員会

調査責任者　加藤正俊（日田市教育長、～平成12年11月14日）　後藤元晴（平成12年11月15日～）




第１図　周辺遺跡分布図（1/20,000）

調 査 事 務　原田俊隆（文化課課長）　石井英信（同課長補佐兼文化財係長）
　　佐々木豊文（同主査）　江田香織（同臨時職員）
調　査　員　行時志郎（文化課主任）若杉竜太（同主事）渡邉隆行（同主事）
調査作業員　穴井早苗　諌元クニ子　伊藤キヨ子　江藤勝義　小下一　酒井富美子　酒井光敏
　　園田光子　田中伝江　中島カズ子　中島トミエ　森山カメノ　吉長利夫　吉永ハルエ

## Ⅱ　遺跡の立地と環境（第1・2図）

遺跡は日田盆地をほぼ南北に貫流する花月川右岸の沖積地上に位置する。花月川はこれまでの流域の調査から過去何度も氾濫を繰り返したていたことが判明している。本遺跡でも川側にあたる調査区の東側には大量の礫が堆積し、氾濫の痕跡を窺い知ることができる。

遺跡の西側には盆地内に数多くある台地の中でも最も発達した山田原台地がある。この台地には弥生時代中期を中心とした集落や同後期の甕棺墓、古墳時代初頭の箱式石棺、奈良時代の大型掘立柱建物が見つかった後迫遺跡が存在する。また、台地東側崖面には５世紀代の羽野横穴墓群が展開し、盆地の中でも遺構密度の濃い台地の１つである。一方、遺跡東側の佐寺原台地には中世日田を治めた大蔵氏の拠点と考えられている大蔵古城跡や夕田横穴墓群、夕田古墳群などがあり、遺跡はこれら遺構密度の濃い台地に挟まれた沖積地に位置する。

## Ⅲ　調査の記録

### １．調査の経過（第２図）

調査はまず、遺構の範囲を明らかにするため、試掘を行っていなかった工事予定区域の東側の道路予定地にトレンチを設定し、確認を行ったが、遺構の存在が認められなかったことから西側のみの調査を行うことにした。まず、表土除去後、遺構検出を行ったが、柱穴・土坑などが調査区のほぼ全域で確認された。その後、これらの遺構の時期の確認のため、遺構の半分のみを掘り下げ、遺構配置図の作成を同時に進行した。その際に建物の存在の可能性が考えられる柱穴と土坑に関してはの全堀を行うとともに個別の遺構実測、写真撮影、空中写真撮影を行い、全ての調査を終了した。

### ２．調査の内容（第３図）

調査では掘立柱建物２棟、土坑１基を検出した。遺物は柱穴より少量の遺物が出土した以外はすべて包含層一括遺物である。また、調査区の東側には礫が大量に堆積しており、花月川の氾濫原と考えられる。

#### １号掘立柱建物（第４図）

調査区の南西隅で検出され、調査区外へ展開すると考えられる。１間以上×１間以上で柱穴間の長さはＰ１、Ｐ２間が心心距離で2.3m、P2、Ｐ３間が心心距離で2.3mである。柱痕は確認されなかった。柱穴の深さは遺構検出面より10～16cmである。遺物の出土はなかった。

第２図　調査区位置図（1/5,000）

**2号掘立柱建物**（第５図）

この建物も調査区の南西隅、１号掘立柱建物の北西側で見つかった。１号掘立柱建物と同様、１間以上×１間以上で、調査区外へ展開すると考えられる。柱穴間の長さはＰ１、Ｐ２間が心心距離で2.1ｍ、Ｐ2、Ｐ3間が心心距離で2.2ｍである。柱痕は確認されなかった。柱穴の深さは遺構検出面より12～16cmである。遺物の出土はなかった。

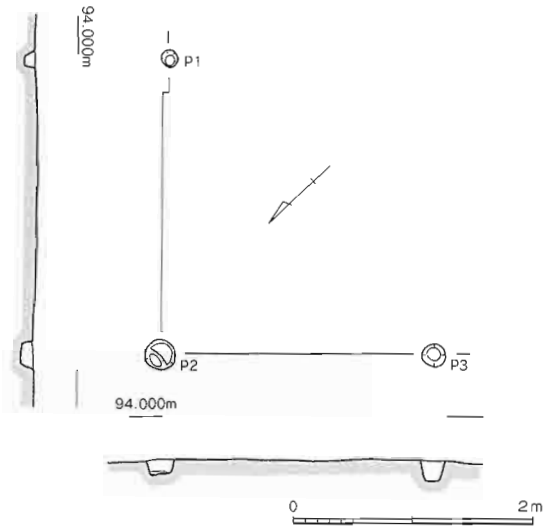
**１号土坑**（第６図）

調査区の西側で見つかった。規模は長軸１ｍ88cm、短軸87cmで、深さは遺構検出面より約５cmと浅い。遺物は出土しなかった。

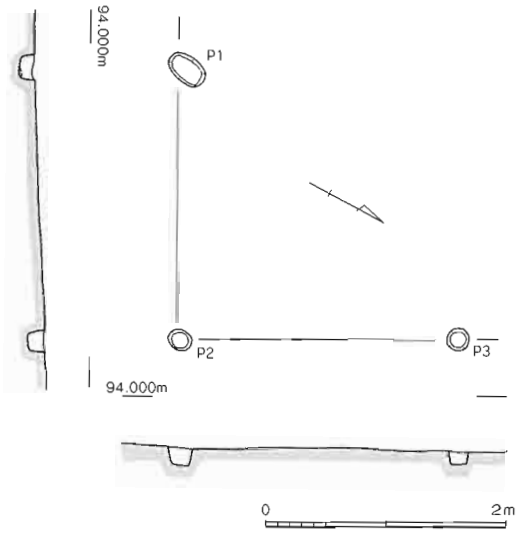
**出土遺物**（第７図）

遺物で図化できたものは８点である。このうち、６（Ｐ９）が柱穴出土でそれ以外は包含層一括遺物である。１は須恵器甕の胴部片である。灰白色を呈し、外面には平行タタキ、内面には同心円タタキが見られる。２も須恵器甕の胴部片である。外面・内面ともに平行タタキが見られるが、外面のタタキのほうがより細かい。３は白磁碗である。口縁部は明確な稜が見られ、内面には鎬に類似した技法が見られる。残存高は4.5cmである。４は青磁碗で、外面には蓮弁文が施されている。残存高は3.5cmである。５は青磁碗の底部である。みこみ、底部は露胎している。高台の端部は明確でなく、やや丸みを帯びている。復元底径7.8cm、残存高2.5cmである。６は土師質土器小皿と考えられる。

第３図　遺構配置図（1/250）

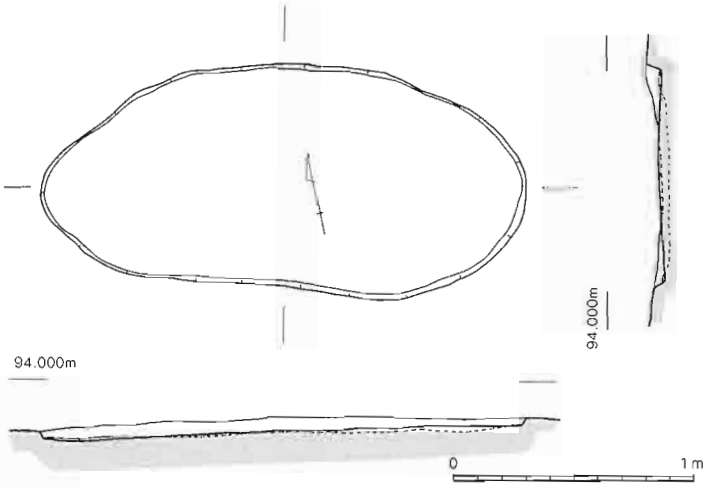



第４図　１号掘立柱建物実測図（1/60）




第５図　２号掘立柱建物実測図（1/60）

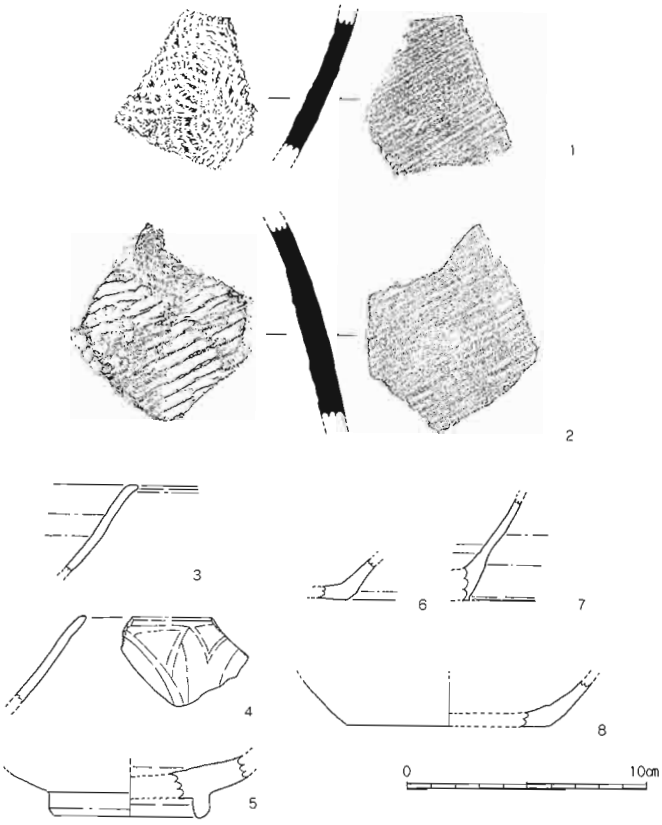
底部は糸切りで内面には煤の付着が認められる。白色粒・赤色粒・長石を含み、赤褐色を呈する。残存高は1.7cmである。７は土師質土器椀で底部端からの立ち上がりが残存している。内面及び高台付近には工具痕が認められる。黄褐色を呈し、長石・金雲母を含む。残存高は4.0cmである。８は土師質土器椀である。内面底部近くにはヘラ状の工具痕が見られる。底部は糸切りである。長石・金雲母を含み、淡赤褐色を呈する。復元底径8.0cm、残存高1.7cmである。




第６図　１号土抗実測図（1/30）

## Ⅳ　まとめ

今回の調査では多数の柱穴が検出されたが、２棟の建物を確認できたのみであった。この２棟の建物は調査区の南西隅で検出されたが、遺物が認められず、建物の時期については不明であるが、遺物については、柱穴出土のものや包含層一括遺物からその時期がある程度推測できる。第7図３～６、８の遺物は12世紀後半から13世紀前半のものと考えられ、建物の時期も同時期の可能性が考えられる。ただし、７についてはやや時期が異なり13世紀後半頃のものであろう。調査区東側には花月川の氾濫によると考えられる大量の礫が堆積していたことから、建物などが見つかった部分は氾濫原の微高地であったと考えられる。

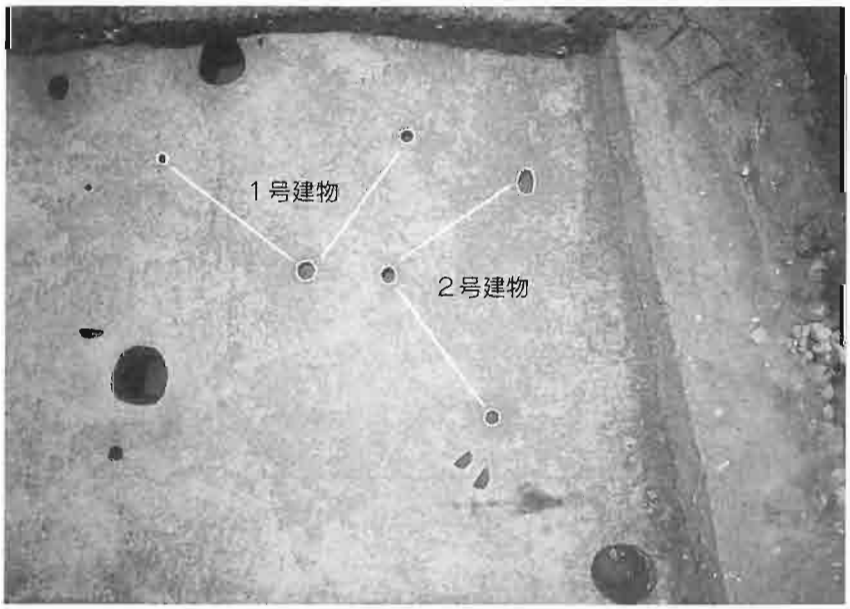



第７図　出土遺物実測図（1/3）

〔図版１〕

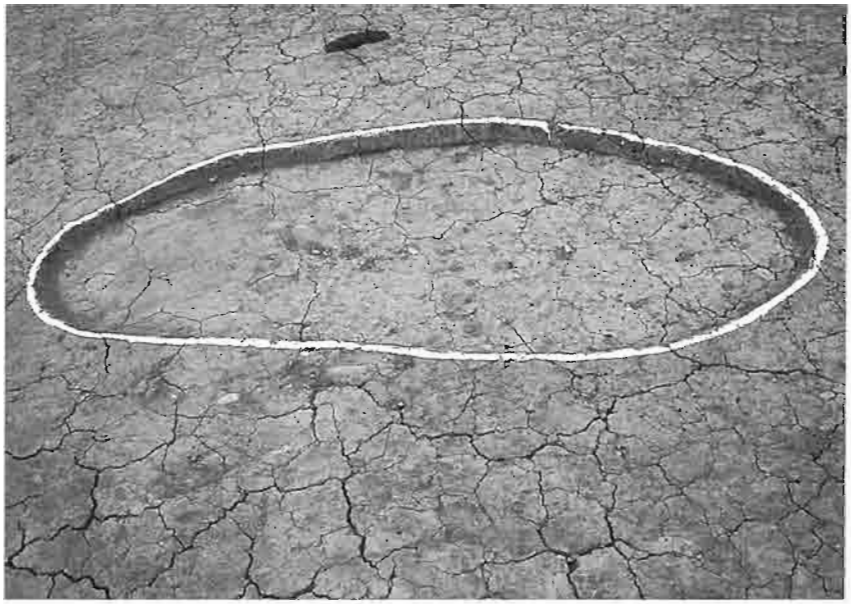
空中写真（東より）

空中写真（真上より）



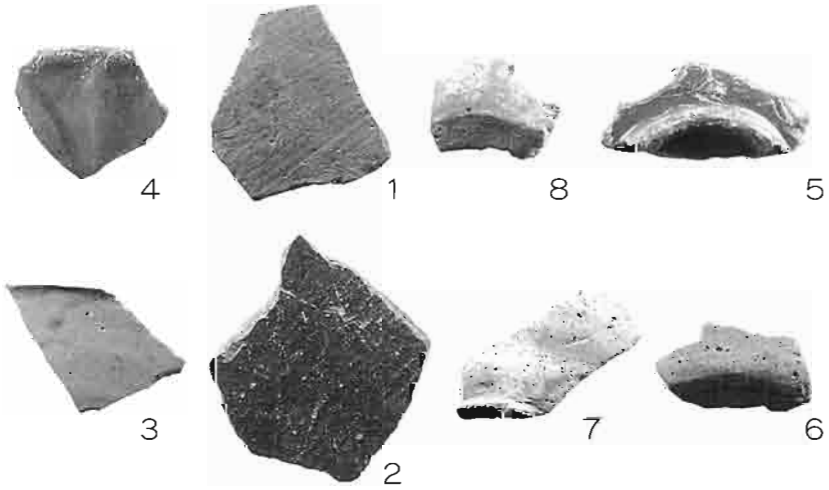

掘立柱建物（真上より）

〔図版2〕



1号土坑（南より）

礫の堆積状況（南東より）




出土遺物
（番号は挿図番号と一致）

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | ひたじょうりのぼてちく5じ |
| 書名 | 日田条里上手地区5次 |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 日田市埋蔵文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 31 |
| 編著者名 | 若杉竜太、行時志郎 |
| 編集機関 | 日田市教育委員会 |
| 所在地 | 〒877－8601　日田市田島2－6－1 |
| 発行年月日 | 1997年3月30日 |

| 所収遺跡名（ふりがな） | 所在地（ふりがな） | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 日田条里上手地区5次（ひたじょうりのぼてちくらじ） | 大分県日田市（おおいたひた）<br>大字三和（おおあざみわ）<br>字当根町12－1ほか（あざとうねまち） | 44204－6 | | | | 19990417<br>～<br>19990512 | 536㎡ | 宅地造成 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 日田条里上手地区5次（ひたじょうりのぼてちくらじ） | 集落 | 平安 | 掘立柱建物<br>土坑 | 2棟<br>1基 | 青磁、白磁、土師質土器、須恵器 | |


日田条里上手地区５次
日田市埋蔵文化財調査報告書
第３１集

平成13年３月30日

発行　日田市教育委員会
大分県日田市田島２丁目６－１

印刷　尾花印刷有限会社
大分県日田市田島本町８－８

# 日田条里上手地区5次

日田市埋蔵文化財調査報告書第31集

二〇〇一年

日田市教育委員会